

敦賀発電所の破砕帯調査に係る「評価書」の問題点について

敦賀発電所を担当する有識者が取りまとめた評価書が、平成27年3月25日、原子力規制委員会に報告されましたが、日本原子力発電株式会社その評価書や原子力規制委員会の対応には多くの問題点があります。

評価書の問題点

- 評価書を当社において詳細に分析したところ、「事実誤認」や「観察事実に基づかない評価」「科学的観点から誤っている評価」など、評価書の結論に直接係る非常に重要な問題点が66箇所認められました。
- また、ピア・レビューの専門家から出された評価書の根幹に係る数多くのコメントについては、その大部分が適切に反映されていませんでした。

【評価書の問題点（主なポイント）は裏面を参照】

原子力規制委員会の対応の問題点

- 当社は、事前の面談において、原子力規制庁から、今後の進め方や評価書（案）の取り扱いについて検討して回答する旨の説明を受けていましたが、当社に対して何ら説明がないまま、評価書が原子力規制委員会に報告されました。このように当社と話し合いをしないまま、一方的に当社に不利益な結論を出すやり方は、行政機関としてとるべき適正手続を全く欠いた行為であり、公権力の行使として不当なものであります。



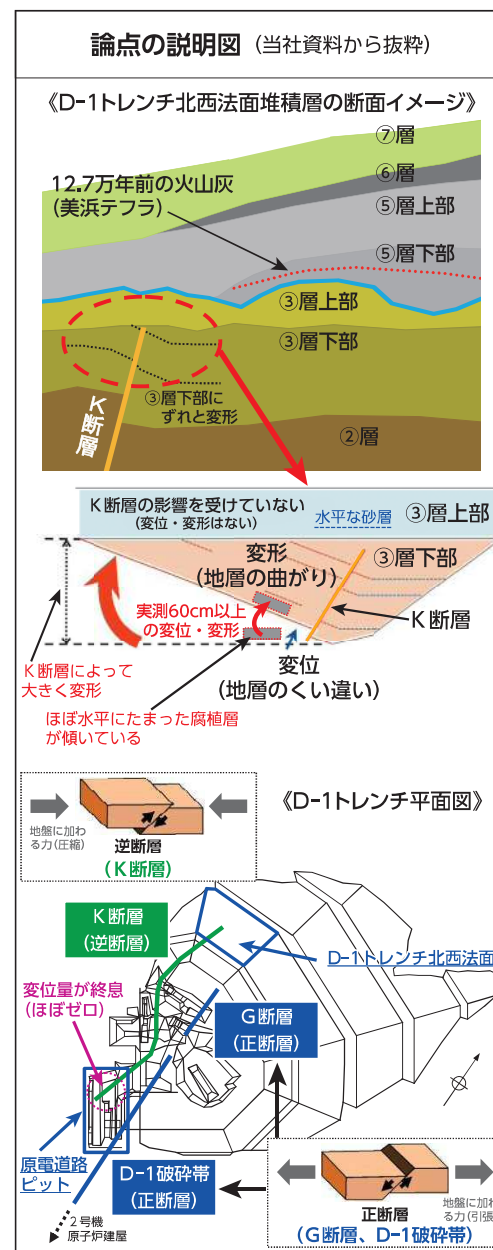
当社の見解

- 当社は、原子力規制委員会に対し、引き続き、評価書に係る科学的・技術的な問題点を指摘するとともに、評価書の見直しを強く求めています。

敦賀発電所の破砕帯調査に係る「評価書」の問題点（主なポイント）

◇当社ホームページに評価書の問題点の詳細を掲載していますので、ご参照ください。
(<http://www.japc.co.jp>)

論点	有識者会合評価書	観察事実と分析データに基づく当社の見解と評価書の問題点
地層の堆積年代（⑤層下部）	1. 濃集分析による火山灰のピークの出現形態は必ずしも同じでなく、降灰層準を示す根拠とは言いがたい。 2. ⑤層最下部で火山灰が検出されないのは地層の粒が粗いためであり、年代評価上は意味を持たない。	1. 降灰層準は、濃集分析などによる火山灰のピークの出現状況に加えて、その他の複数の根拠（火山灰の広がりや他の火山灰との層位関係など）に基づき認定しており、左の指摘は当たらない。 有識者の評価は、科学的に誤っているものである 2. 火山灰が検出された地層と検出されない地層（⑤層最下部）の粒の粗さに差異はないことは確認されている。したがって、火山灰が検出されない地層が美浜テフラ（12.7万年前の火山灰）よりも前に堆積したことは明らか。 有識者の評価は、全くの事実誤認である
K断層の活動性	1. ③層にK断層の変位・変形が明瞭に確認できる。しかし、③層は堆積構造が明確でない地層のため、活動性の議論が困難である。 2. ③層上部や⑤層下部は、K断層全体を覆っておらず、K断層の変位も断層先端部では小さくなっているため、これらの地層ではK断層の活動性を判断できない。	1. 腐植層が傾いていることや粒の粗さの違う地層が分布する③層は堆積構造を有しており、③層は活動性の議論ができる地層であることは明らか。（なお、有識者もピア・レビュー会合で「③層に堆積構造がある」と認める発言をしており、評価書の記載と矛盾している。） 有識者の評価は、観察事実に基づかず、科学的に誤っているものである 2. ③層上部が③層下部を水平に覆っている観察事実から、K断層は③層上部に変位・変形を与えていないことは明らか。また、変位量と変形量の両方を合わせると、③層下部まではK断層による変形が大きく残っていることは観察事実で明らかのため、K断層の活動性は容易に判断できる。 有識者の評価は、観察事実に基づかず、科学的に誤っているものである
D-1破砕帯（G断層とK断層の連続性）	1. K断層の変位が南に向かって急激に減少し、原電道路ピット付近でほぼ認められなくなることは不自然である。 2. K断層は、屈曲しながら複数の破砕帯を乗り継いでいる可能性があり、南方へ続く可能性は否定できない。 3. K断層は、D-1破砕帯等、原子炉建屋直下を通過する破砕帯のいずれかと一連である可能性が否定できない。	1. K断層はD-1トレンチ内で途切れることなく連続し、原電道路ピットでK断層の変位がほぼ認められなくなることは、厳然たる観察事実である。 有識者の評価は、観察事実に基づかず、科学的に誤っているものである 2. 原電道路ピットから2号機原子炉建屋の間のボーリング調査により、原電道路ピット南方には、K断層の特徴である逆断層センスの破砕帯はD-1破砕帯を含め確認されておらず、K断層が南方へ続く可能性は全くない。 有識者の評価は、観察事実に基づかず、科学的に誤っているものである 3. 同上。 また、これまでの会合において、D-1破砕帯以外の破砕帯とK断層の連続性は論点となっていない。 有識者は唐突に論点をすり替え、科学的に誤っている評価をしている



日本原子力発電株式会社 敦賀地区本部 業務・立地部

お問い合わせ先 〒914-0051 福井県敦賀市本町2丁目9-16 TEL 0770-25-5713（土日祝日を除く9時～17時）